

徳島型水田農業の推進

ねらい

本県の稲作は水田面積の6割、農業粗生産額の1割を占めており、農業経営の中核として農地の維持管理や、ブランド化された園芸品目の裏作としても大きな役割を持っている。

また、水田を中心に農地の維持を図るためには、業務加工用米・酒米・飼料用米等の新規需要米への転換を継続することが重要となっているとともに、現場からは夏季の高温の影響による品質低下に対する技術対策が強く要望されている。

活動地域・対象

県下全域，水稻経営体

普及活動の目標

- 1 高温耐性品種の早生種で1品種を選定
- 2 あきさかり専用基肥一発肥料の改良

目標に向けた活動概要

- 1 徳島に適した高温耐性品種の現地実証を実施した。

・早生種「にじのきらめき」



・晩生種「にこまる」



- 2 飼料用米専用品種の生産性向上（現地実証）

・飼料用米「みなちから」の現地実証を実施した。



- 3 あきさかり専用基肥一発肥料の現地実証

・JA全農とくしまと連携し、専用一発肥料の試作と現地実証を実施。



普及活動の成果

1 徳島に適した高温耐性品種の現地実証

【早生品種「にじのきらめき」について】

- ・ 稈長が27cm短く、コシヒカリに比べかなり倒伏しにくいことがわかった。
- ・ また、白未熟粒が4割少なく、高温耐性品種の特性が表れていた。
- ・ 収量と食味は、ほぼコシヒカリと同程度で優れていた。

【晩生品種「にこまる」について】

- ・ 収量は2割増収で収量性に優れる。
- ・ 品質は同程度で、高温耐性を持つ優位性は表れなかった。
- ・ 成熟期が4日程度遅い。

品種名	出穂期		成熟期		精米同左		対屑米重		千粒重		蛋白質		食味 SUJ	整粒		白未熟粒 %
	月・日	月・日	kg/a	%	kg/a	g	%	%	%	%	%	%				
コシヒカリ	7.7	8.13	59.9	100	1.6	21.6	6.5	18.1	85	73.8	4.4					
にじのきらめき	7.7	8.13	55.9	93	0.6	24.0	6.1	19.3	86	68.0	2.5					

2 飼料用米専用品種の生産性向上（現地実証）

【みなちから】

- ・ 飼料用米の従来品種あきだわらと比べ倒伏しにくい点はあるものの、収量性はほぼ同じで品質はかなり劣り成熟期が5日程度遅いことから、本県への導入には不適と判断された。

3 あきさかり専用基肥一発肥料の現地実証

- ・ 慣行、試作とも出穂期や成熟期などの生育ステージは同じであった。
- ・ 収量性、品質は慣行が若干良かったものの、試作とほとんど差がなかった。
- ・ 食味も差がなかったことから、試作は慣行と遜色ないレベルの資材と思われる

4 実証ほでの現地検討会の実施

- ・ 水田営農指導班において、新品種と専用一発肥料の現地検討を行い、品種特性や資材の特徴について情報を交換し共有した。

5 成績検討会の実施

- ・ 水田営農指導班において、全農業支援センターの実証ほも含めた成績検討会と品種ごとの食味を行い、今後の方向性を検討した。

用語説明

今後の発展方向

- ・ 農業者からは早期米の高温耐性品種導入に強い要望があり、これに対応した活動を重点に置き、極早生の耐性品種も加えて検討を進めます。
- ・ 飼料用米の品種検索は本年度で終えて、今後予想される米価格の低下に対する経営の安定化のため飼料用米の栽培推進を支援します。
- ・ あきさかり専用一発肥料をさらに改良した試作資材の現地実証を行い、収量と品質の向上を目指します。

関係者からの声

（展示受託農業者）

にじきら：倒伏の心配はなく機械適性も問題ない。地域農業者の多くが現地展示を観察しており、品種名と特徴が知られています。

にこまる：収量性に加え食味が優れています。しかし収穫期がかなり遅いのが難点だ。

飼料用米：株はしっかりし倒伏はなさそうだが収量がばっとしない。既存品種あきだわらの方が総合的には優れた。今後、新品種がでたら知らせて欲しい。

（JA全農とくしま）

専用一発肥料：慣行の一発肥料と同程度で去年の資材よりはかなり改善された。関係者と検討しさらに新たな専用肥料を開発し2年後には商品化したい。

高度技術支援課 連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel：088-674-1922

